

## 審査の結果の要旨

氏名 遠藤 新

本論文は、米国における大都市の都心部の再生過程を対象に、成功した事例には都心部周辺に個性的な複数の地区が出現しているという現象に着目し、空間的特性が曖昧な一般的既成市街地内に新しく個性的な地区が出現するという現象を「地区の顕在化」という概念で総括し、それが米国大都市の都心部の再生に以下に寄与したのかを明らかにすることを目的としている。さらに、なぜ米国においては「地区の顕在化」という現象が見られるようになったのか、それはどのようにして実現したのか、についても考察している。

これらの作業を通して、とりわけわが国の都市に共通してみられる性格の曖昧な一般的既成市街地における空間整備に関して有効な知見を得ることを目標としている。

論文は研究の枠組みを示した序章の他、7章から成っている。

第1章は、米国大都市の都心部における空間整備の動向を要約している。そのなかで、都心部（本論文ではダウントウンと呼称している）のコア領域である CBD 地区の周辺にフリンジ領域が存在し、そこでの課題は低所得者層の居住地などの旧組織の整備と鉄道ヤード跡地などの失われた空間の再整備が共通していることを明らかにしている。これらの作業を通してダウントウンに顕在化した個性的な地区の構成要素を明らかにしている。

第2章は、長い歴史を有すると同時に衰退からの脱却を共通の課題としている中西部の6都市を採り上げ、それぞれのダウントウンにおける空間整備プロジェクトを詳細に分析し、プロジェクトの連鎖によって個性的な地区を顕在化させていく方法論を明らかにしている。以上の2つの章によって、個性的な地区を旗印に既成市街地を再構築することの計画論的な意義を提示している。

第3章は、個性的な地区を顕在化する計画的取り組みとその方法を中西部6都市を事例に、相互比較を行いつつ、詳細に明らかにしている。個性的な地区を生成のプロセスを戦略及び組織体制の両側面から分析している。

以上、第1、2、3章によって、米国ダウントウンの戦略的な変貌について、その空間秩序と既成市街地全体の再構成の方法論を明らかにしている。

続く第4、5、6章は、個性的な地区を顕在化させる仕組みと実践手法に関して具体的な事例をもとに論じている。

第4章は、クリーブランド市のユークリッド・ゲートウェイ地区を対象に、事業誘導の仕組みと実践手法について具体的な事例をもとに論じている。

第5章は、セントポール市ロウアータウン地区を対象に、開発公社の役割を明確に評価

し、特にデザイン支援のあり方とそのプロセスについて詳細に論じている。

第 6 章は、ミルウォーキー市サードワード地区を対象に、リバーフロントにおける戦略的な連鎖的市街地整備のシナリオを評価しつつ論じている。

結章は、以上の分析を通して、ダウンタウンのフリンジ領域において、伝統的ショッピング地区モデル、歴史的エンターテイメント地区モデル、歴史的ロフト地区モデル、エンターテイメント開発地区モデルが共通した土地利用として抽出されている。そして、これらの地区を継続的に維持管理し、再生させていくためには、まちづくり専門組織による連続的かつ戦略的な事業化が図られる必要がある、という点に関して、具体的な議論をおこなっている。

都心部の再生戦略を考察する際に、新しく都心のフリンジ領域に着目し、そのフリンジ領域がどのようなものであるのかを明らかにし、その地区区分をおこない、そこにおける連鎖的かつ戦略的な事業プロセスのあり方を示している。

このような米国の都心部再生の過程が具体的な都市の詳細なデータをもとに実証されたことは過去に例がなく、日本における都市再生の戦略のにおおいに寄与しているといえる。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。